

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572308013		
法人名	有限会社すずめだて		
事業所名	グループホームすずめだて 1号棟		
所在地	秋田県南秋田郡五城目町高崎字雀館下川原88-5		
自己評価作成日	令和4年10月21日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が笑顔絶やさず自由に生活していただけるようなホーム作りを心掛けている。畑は毎年耕作し、野菜を収穫し食卓に出し、皆で味わっている。コロナ禍で外出の制限がある中、お祭りなどホーム内で職員手作りの劇やショーを提供し楽しんで頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和4年11月21日		

在籍期間の長い職員が多く、気軽に話し合える職場環境の下でユニット間の連携が図られ、毎日各ユニットの情報交換をして利用者の状況を共有しています。職員は笑顔で利用者に関わり、利用者が安心して生活できる支援に努めています。今なおコロナの影響で制限がある状況ですが、コロナ以前と支援の方法が異なることがあっても、利用者が1日を有意義に過ごせるよう工夫を凝らしながら理念に沿ったケアの実践に努めており、実際に利用者はストレスなく生活しています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念で実践している。新人の職員もいるため理念の共有を意識する様伝えている。	利用者の笑顔を引き出すことを意識した支援をすることで理念の実践に繋げていけるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事もほとんど中止となり地域とのつながりが困難となっているがボランティアの声かけもいただき、少しずつ交流を増やしている。	制限が多い中で、ボランティアの来訪を利用者に喜んでいただくことができた他、近所の理美容院に出かけたり、ヤクルトの宅配を利用する等、状況をみながら地域と関わる事ができるよう支援しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	コロナ感染発生以来、地域との繋がりが困難となり地域貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染増加で文書での報告が多いが、開催時には入居者状況、ヒヤリハット報告、レクなど報告し現状の問題点などを話し合い意見交換している。	対面会議では避難場所の検討等、災害時の対策について話し合っています。文書による会議でも会議メンバーに意見をいただくようにしており、サービスに繋げることができるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ関連、予防接種、また、避難計画のことなど連絡を取り合い協力を得ている。	行政とはそれぞれの立場で協力関係を築いており、連携できるよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議で身体拘束についての話し合いをもち、声かけを行い防止に努めている。	適正化委員会は職員会議の中で開催しています。利用者の状況に応じて対応を話し合い、身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットからの資料情報にとどまって理解、活用は不十分である。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い問題点などあれば理解を得るまで説明している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	面会制限などで、家族の意見、要望を聞く機会が少なくなっているが、短時間面会又はTEL連絡をして要望を聞き対応している。	電話や預かり金の支払い等で訪れる機会を利用し、利用者の様子を伝えながら家族の意見を求めています。訪問時の内容は個人ノートに記録し、要望等があれば検討して適切に対応できるよう努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月の職員会議で職員の意見要望を聞き問題点を話し合っている。	管理者と職員との関係性は良く、話しやすい雰囲気の中で日常的に意見を出し合っており、運営に反映させています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の行事もほとんど中止となりなかなか機会もないがグループホーム同志の電話連絡などで、話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム利用前に事前調査を行い日常的な場面や本人の気持ちの聞き取りをしている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にこれまでの生活状態、心身状態を聞き問題点要望を明確にしたうえでホームでどのように過ごしていきたいのか伺っている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の考えや過ごしてきた生活を尊重し時には教えてもらう立場になり支えあう関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族との関わりも少ない中で通院の同行、状態の変化など事あるごとに連絡、相談を行い協力をいただいている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	面会は難しい状況だが、これまで利用していた美容院、床屋などは出かけている。TELは自由にかけけている。	玄関のガラス戸越しやオンラインでの面会を行っており、顔が見えることで落ち着いて過ごすことができます。携帯電話や年賀状が関係継続支援の一役を担っています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームでの暮らしの中心となっているホールに集まり関わりを持てる様支援している。認知症の症状が進行し居室内で多く過ごされている入居者様にも声がけしお互いに支えあえるよう支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の様子を電話で伺っている。今後も必要に応じて支援します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で心身の状態を把握し変化が見られた場合は都度、対応し検討している。	入浴時や居室での対話の時間を大切にしています。利用者の日常の様子から気づくことも多く、その都度対応を話し合っています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や暮らし方などを聞き取り家事、趣味、培ってきたものを継続できるように取り組んでいる。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	毎月の職員会議でモニタリング、カンファレンスを行い入居者様の状態を話し合い穏やかな生活が送れるよう介護計画を作成している。	担当職員がモニタリングを行い、カンファレンスで他の職員とも話し合っており現状に即した介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアプランの項目に沿って評価を行い情報を共有し介護計画に反映させている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の利用も難しいが避難訓練など地域との交流ができる時には交流を持つようにしている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医による、月2回の往診や緊急時には速やかに連絡を取り往診を依頼するなど医療連携体制をとっている。また、入居前からの医療機関で継続受診している入居者様もおり本人の希望に沿った支援をしている。	希望に沿って対応しており、受診時には利用者の状況がわかる日常の記録を活用しています。利用者の納得を得るために、薬剤師に直接説明していただくこともあり、協力関係が築かれています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察の中から情報を伝え定期的な受診や緊急時の医療活用の支援をうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入退院時は職員が病院を訪れ話し合いを行い情報交換をしており速やかに家族に報告している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には家族の意向を尊重しかかりつけ医とも相談し方針を共有している。	家族の意向に沿って支援しており、家族の協力も得られています。コロナ禍での家族の協力の在り方を検討しているところです。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応マニュアルをホームの見やすい所に掲示している。また、全職員が救命救急の講習を受けている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害緊急時に備え、年2回の避難訓練を行い安全に避難できる事を考えている。コロナ禍で近隣の協力体制が課題となっている。	緊急時には隣の家屋を避難場所にしており、避難経路は舗装済みです。大雨の際には町内会で側溝を掃除していましたが、近隣住民の高齢化が協力体制づくりの課題となります。	夜間の緊急時に応援が到着するまでの具体的な対策を検討すると共に地域の状況や協力体制について等、運営推進会議を活用した取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、プライバシーを損ねるような声掛けや対応をしないようにしている。	尊敬の念を持ち、言葉遣いや態度に気を付けて接することができるよう、折に触れて注意喚起しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の個性を大切に服装、おしゃれを支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑からの収穫した野菜は、味わって食べている。個々の、好みなどを理解しており工夫する時もある。	ホームの菜園で旬の野菜を育て、利用者が草取りや収穫を手伝い、食卓に並ぶ楽しみを味わっています。干し柿をつくったり、山菜の処理等には生き生きとした表情がみられ、利用者の能力を引き出す場面となっています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の身体機能、健康状態に合わせた調理方法で食事、水分の摂取量の把握をしている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な入居者様は職員が食後にまた、見守りで出来る方は自力で口腔洗浄をおこなっている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し時間をみて誘導を行い訴え時にはすぐに誘導して出来る限りトイレでの排泄をうながしている。	チェック表を活用した支援が行われています。その時々状況に合わせた排泄用品の使用について話し合い、費用負担に配慮しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には牛乳が食卓にでている。また、個人でヤクルトなど宅配利用している方もいる。便秘が続いた時には処方に従っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本としている。介助が必要な入居者様には職員1~2人で介助に入っている。入浴のない日は足浴をおこなっている。	ほとんどの方にスムーズな入浴支援が行われています。拒否のある方には清潔保持のための清拭を行っています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠の違いもあり生活習慣、体調を理解し安心して眠れる様支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬剤情報を理解し、体調観察に努め必要に応じ医師に相談し健康維持に努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	山菜、畑もの下ごしらえ、洗濯物たたみ、スクラッチ、手足の運動など会話をしながら楽しんでいる。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で遠くや人混みの場所は難しいが近所への花見、ドライブなど出かけている。紅葉ドライブも計画しており、できる限りの外出支援をしている。	コロナ禍ではあるものの、ホーム内外で気分転換できるよう、試行錯誤しながら楽しみ方を考えて支援しています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金など希望に応じ使えるようにしている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール壁面に季節の飾りつけをし季節感をだしている。スクラッチアートを頑張っており作品を廊下に掲示している。	多くの見事な手作りの装飾品が壁や棚を飾っています。廊下の一角にソファが置かれ、時には椅子も持ち出して利用者の語らいの場となっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで皆でレクを楽しんだりまた、他者様の居室に遊びに行ったり思い思いに過ごされている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具、日用品をもってきており安心感が持てている。また、本人からの訴えがある時には家具の位置交換などに応じ居心地良く過ごせるように支援をしている。	使い慣れたものを持参することで安心して過ごせる居室づくりに取り組んでおり、利用者それぞれの思いや状態に合った環境がつけられています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや歩行器を使用し自力歩行出来るよう見守ります。衣類の収納、カーテンの開閉、新聞たたみ、テーブル拭きなどおこなっている。		